

オレンジ通信

Vol.3

地域包括ケアシステム推進委員会では、士会会員向けに9月の世界アルツハイマーデー・月間に合わせて「オレンジ通信」を作成し、認知症支援活動の普及啓発を行なっております。本号は以前より参加している「認知症家族会」と「認知症支援関連情報」をお伝えいたします。

認知症家族の会

2023年度より、家族会（つどい）へ委員を中心に2地区（新潟、上越）に参加をしています。

2024年度は新潟地区〇〇回、上越地区〇〇会の参加を行いました。

また、今年度は委員だけではなく、「つどい研修会」として会員の参加も始めております。

参加風景



参加した委員の感想



当事者様やご家族様の生活場面での困りごとをお聞きし、他職種とのやり取りに触れることで、専門職としての新しい視点に繋がりました。

つどい研修会参加者の感想



研修という形で参加しやすく、家族会の大切さを改めて実感できました。

つどい研修会参加者の感想



認知症の人が生きていくとはどういうことか、一部ですが理解が深まりました。座学では得られない貴重な体験でした。

認知症支援関連情報

認知症の有病率は年々増加しており、認知症はだれもがなりうるものと考えられています。こうした中、認知症の人を単に支えられる側と考えるのではなく、認知症の人が認知症とともによりよく生きていくことができるよう、認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる社会を実現すべく、国としても認知症支援を推進しております。

2024年1月 認知症基本法施行

認知症施策の計画で推進する12項目



重点目標の4項目

社会参加の機会確保	研究の促進	施策策定に必要な調査の実施
認知症の予防	国民理解の促進	多様な連携
相談体制の整備	バリアフリー化の推進	自治体への支援
保健医療と介護福祉の充実	意思決定の支援と権利利益の保護	国際協力

- ・本人の意思尊重
- ・新しい認知症観
- ・地域で安心できる暮らし
- ・新たな知見や技術の活用

内閣府 認知症施策推進関係者会議
第1回(令和6年3月28日)～6回(令和6年9月2日) より一部引用

日本作業療法士協会の取り組み

認知症のリハビリテーションを生活行為の支障に対して、暮らしの中の「道具」や「環境」を工夫し、本人の暮らしがいつまでもできるよう、続けていけるようにすること。と説明したうえでヒント集を公開しております。この「ヒント集改訂版」では、物忘れなどで困っている人のためどのような工夫ができるか、そのヒントを示しています。

困ったときはひとりで頑張り過ぎずに、周囲の人や、作業療法士等にご相談ください。と作業療法士の広報を行っています。

我々作業療法士はひとりひとりの能力が発揮できる、生活の中での「できる」を応援していきます。としています。

*「生活行為を続けるためのヒント集-改訂版-」は令和6年度老人保健健康増進等事業「認知症リハビリテーションの推進のための調査研究事業」にて作成しています。



一般社団法人 日本作業療法士協会ホームページより引用 <https://www.jaot.or.jp/about/topics/detail/1113/>